



次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(設問の都合上、省略したところがあります。)

(千葉雅也『現代思想入門』講談社現代新書)

著作権許諾申請中

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

今は昔、池のほとりに蛙のあまた集りていふやう、「あはれ生きとし生けるものの中に、^①人ほど羨ましきものはなし。われら、いかなればかかる生をうけて、^②手足をばそなへながら、水を泳ぐを能として、陸にあがりてはつくばひ居り、行く時も心のままに走り行くことかなはず、ただひよくひよくと跳ぶばかりにて早為はやわざもならず。いかにもして人のごとく立ちて行くならば良かるべし。いざや観音に願をかけて、立つことをいのらん」とて、観音堂にまゐりて、「願はくはわれらをあはれみ給ひ、せめて蛙の身なりとも、人のごとくに立ちて行くやうに守らせ給へ」と祈りける。^aまことの心ざしをあはれとおぼしめしけん、そのまま後ろの足にて立ちあがりけり。「所願成就したり」と、喜びて池に帰り、「^bさらば連れ立ちて歩いて見ん」とて、陸に立ち並び、後ろ足にて立ちて行けば、目が後ろになりて一足も向かふへ行かれず。先も見えねば危さ言ふばかりなし。「これにては何の用にも立たず。^③ただ元のごとく這ははせて給はれ」と祈りなほし侍りといへり。浮世房聞きて、「世間の人これらのたぐひに似たる事多し。とかく身のほどを知らざる故に、君を恨み世をかこつ者みなかくのごとし。蛙は、おのれ鳥獸にだにもあらず、虫のたぐひにして、人を羨み、立ちて行かんとすれども、生れつき人に似ず、^④目のつき所のあしければ、立ちて行くべきものにあらずと、身のほどを知らざる故なり。」

『浮世物語』による

問一 ―― 線部 a・b の本文における意味として最も適切なものを、次の中からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

- | | | |
|--|---------------|--|
| | a | |
| | ┌───────────┐ | |
| | ア | 蛙たちは、心を込めて祈りさえすれば、観音は願いを聞き入れてくれるとでも思ったのだろうか |
| | イ | 観音は、ひたすら祈る蛙たちの態度に疑問を抱き、心の内を試してみようとでも思ったのだろうか |
| | ウ | 蛙たちは、不自由な生から逃れ、正当な権利を得ることができはずだとでも思ったのだろうか |
| | エ | 観音は、あまりに切実な蛙たちの願いに心打たれ、ぜひ叶えてやりたいとでも思ったのだろうか |
| | オ | 蛙たちは、自分たちの生き方をただ嘆くだけでは、何の変化も得られないとでも思ったのだろうか |
| | ア | 思い思いのところを歩こう |
| | イ | 泳ぐのをやめて一緒に歩こう |
| | ウ | さあ、並んで歩いてみよう |
| | エ | それなら歩くのはやめよう |
| | オ | 一緒に歩いてから別れよう |
| | | b |
| | | └───────────┘ |

問二 ―― 線部①とありますが、蛙たちが「羨まし」と言う、「人」の特徴を本文中から五字以内で抜き出して答えなさい。

問三 ―― 線部②についての説明として最も適切なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 「手足を持っているおかげで」という意味で、「水中をうまく泳ぐことができる」に続いている。
- イ 「手足を持っているのに」という意味で、「水中を泳がなければならない」に続いている。
- ウ 「手足を持っているからこそ」という意味で、「水中でも陸でも過ごすことができる」という内容に続いている。
- エ 「手足を持っているのならば」という意味で、直接的には「陸の上では這いつくばっている必要はない」に係っている。
- オ 「手足を持っているにもかかわらず」という意味で、直接的には「陸の上では這いつくばっている」に係っている。

問四 ―― 線部③とありますが、「元のごとく」とは蛙たちがどのようなようであったことを言っているのですか、答えなさい。

問五 — 線部④とありますが、これはどのようなことを指しているのですか、五十字以内で説明しなさい。

問六 浮世房は、蛙と人にどのような共通点があると指摘しているのですか、その説明として最も適切なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 自分の理想像を定めながらも、その実現に向けた手段を誤ってしまう点。
- イ 自分の身の程を知らずに不幸な境遇にあると嘆いて、大それた望みを抱く点。
- ウ 自分の願望を他者にも押し付けることで、周囲に不利益をもたらしてしまう点。
- エ 自分に備わっている性質に満足できず、常に変化を求めて失敗を繰り返す点。
- オ 自分に対する評価を気にするあまり、内面と行動との間に矛盾を生み出す点。

三

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(設問の都合上、訓点を省略したところがあります。)

龐葱＊ほうそうと太子質＊ちたうらんとす＊かんたん於邯鄲たん。謂魏王いひて曰、「今①一人言市有虎、

王信之乎。」王曰、「否。」二人言市有虎、王信之乎。」

王曰、「寡人疑之矣。」三人言市有虎、王信之乎。」王曰、

「寡人信之矣。」龐葱曰、「夫市之無虎明矣。然而三人

言而成虎。今邯鄲去大梁也遠於市、而議臣者過於三

人矣。③願王察之矣。」王曰、「寡人自為知。」於是辭行。

而讒言先至。後、太子罷質。果不得見。

(『戦国策』による)

*注 龐葱||魏の臣下の名。 質||人質となること。

邯鄲||趙の都。

寡人||わたくし。諸侯や君主の自称。

大梁||魏の都。

議臣||私(=龐葱)のことを批判する。

讒言||他人を陥れるための、事実を曲げた告げ口。

問一 —— 線部 a 「辞」・b 「果」の漢字の意味として最も適切なものを、次の中からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

- | | | | |
|---|--------------|---|----------|
| a | | b | |
| ア | 同行するのをやめて | ア | 思った通りに |
| イ | 王に別れの挨拶をして | イ | どうにもできず |
| ウ | 安堵の表情を浮かべて | ウ | 意外なことに |
| エ | 王の臣下の地位から退いて | エ | 様々な段階を経て |
| オ | 王に不信の念を抱いて | オ | 不都合なことに |

問二 —— 線部①は「一人市に虎有りと言はば」と読みます。これに従って返り点をつけなさい。(送り仮名は不要)

問三 —— 線部②はどういうことを言っているのですか、六十字以内で説明しなさい。

問四 —— 線部③の説明として最も適切なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 皇太子とともに邯鄲に行くことを妬む者が現れるのではないかと危惧した龐葱は、皇太子を守ることができないのは自分において他にないということ、魏王に信じ込ませようとしている。

イ 邯鄲に行った後、自分に關してつまらないことを言う者が現れるに違いないと思った龐葱は、そのような言葉に惑わされることなく、自分のことを信じてほしいと魏王に訴えている。

ウ 龐葱は、人が最も大切にするのは自分自身であり、そのためには王をも平気で騙す場合があると論しながら、自分が邯鄲に赴いた後は自分に代わる信頼できる臣下を得るべきだと魏王に進言している。

エ 龐葱は、皇太子を守ることが務めであるとは言え、遠く離れた邯鄲の地に行かねばならない自分のつらさを語りながら、任務終了後はすみやかに大梁に戻すよう働きかけてほしいと魏王に懇願している。

オ 自分が邯鄲に行くことで、魏の行く末に不安を抱いた龐葱は、君主に対しても臆することなく批判的な意見を述べるような者こそが真の忠臣であるということを魏王に伝えている。

問五 — 線部④について、以下の問いに答えなさい。

(1) この部分の説明として最も適切なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 龐葱の言葉を聞き入れ、自身で真実を見極めようと返答している。

イ 龐葱の言葉が理解できず、より丁寧に説明するよう求めている。

ウ 龐葱の言葉に疑念を抱き、自分で事の真偽を確かめようと述べている。

エ 龐葱の言葉をもっともだと判断し、彼を守ってやろうと答えている。

オ 龐葱の言葉に心を動かされ、王としての務めを果たそうと伝えている。

(2) このような発言をした王は、結局どのようなようになりましたか、三十字程度で答えなさい。